

シンポジウム

地球環境パートナーシッププラザ20周年記念シンポジウム GEOCとこれからのパートナーシップ



写真: 白山ユネスコエコパーク協議会

本シンポジウムでは、環境省と国連大学の共同イニシアチブである地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）の20周年を振り返るとともに、2015年9月に国連加盟国により採択された持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、多様なステークホルダーによるグローバル・パートナーシップの促進について、専門家や実践者の方をお招きして議論します。1992年に国連環境開発会議で採択されたアジェンダ21にて、パートナーシップの必要性が言及されて以降、GEOCはパートナーシップの普及促進に努めてきました。さらに、SDGsの目標17には、グローバル・パートナーシップの活性化が掲げられたことから、今後ますます重要となるパートナーシップのこれからについて議論する機会とします。

14:00-14:10 挨拶

14:10-15:00 基調講演

小林光氏（慶應義塾大学）

蟹江憲史氏（慶應義塾大学）

15:00-15:20 座談会リレートークの論点整理

佐藤真久氏（東京都市大学）

15:30-16:55 座談会リレートーク

阿部治氏（EPO等運営委員長/立教大学）

今田克司氏（CSOネットワーク/日本NPOセンター）

長澤恵美子氏（経団連事業サービス）

永井三岐子氏（UNU-IASいしかわ・かなざわオペレーションユニット）

2016年10月12日(水)
14:00-17:00

場所:

〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70
国連大学 5階 エリザベス・ローズ会議場

総合司会: 渡辺綱男 (UNU-IAS)

キュレーター: 佐藤真久氏 (東京都市大学)

主催:

環境省

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)

地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)

プログラム

14:00-14:10	挨拶 奥主 喜美 環境省総合環境政策局長 竹本 和彦 国連大学サステナビリティ高等研究所所長
14:10-14:40	基調講演①「日本における環境パートナーシップの歩みとGEOCへの期待」 小林 光 慶應義塾大学政策・メディア研究科特任教授
14:40-15:00	基調講演②「SDGs目標17の意義と日本への期待」 蟹江 憲史 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授/国際連合大学サステナビリティ高等研究所 シニアリサーチフェロー
15:00-15:20	座談会リレートークの論点整理「SDGs達成にむけたパートナーシップの役割—座談会リレートークの論点整理と 日本の経験から」 佐藤 真久 東京都市大学大学院環境情報学研究科教授/国連大学サステナビリティ高等研究所客員教授
15:20-15:30	休 憩
15:30-16:55	座談会リレートーク 阿部 治氏、今田 克司氏、長澤 恵美子氏、永井 三岐子氏
16:55-17:00	閉会挨拶

総合司会：渡邊 綱男 国連大学サステナビリティ高等研究所シニアプログラムコーディネーター

キュレーター：佐藤 真久 東京都市大学大学院環境情報学研究科教授/国連大学サステナビリティ高等研究所客員教授

登壇者 プロフィール

<p>小林 光（こばやし ひかる） 慶應義塾大学政策・メディア研究科特任教授</p> <p>1949年11月東京生まれ。慶應義塾大学経済学部卒、東大まちづくり大学院修了、パリ12大学都市研究所満期退学。博士（工学）。73年環境庁入庁。地球環境局長、大臣官房長、事務次官などを歴任。地方では、北九州市産業廃棄物課長を務める。2011年1月退官、同年4月、慶應義塾大学教授（現在は同大学院の特任教授）。エコ経済などを一貫して担当。自宅エコハウスも有名。編著書には、「環境でこそ儲ける」、「地球の善い一部になる」、「地球とつながる暮らしのデザイン」などがある。</p>
<p>蟹江 憲史（かにえ のりちか） 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授/国際連合大学サステナビリティ高等研究所シニアリサーチフェロー</p> <p>慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授、国際連合大学サステナビリティ高等研究所シニアリサーチフェロー。北九州市立大学法学部助教、東京工業大学大学院社会理工学研究科准教授を経て2015年より現職。専門は国際関係論、地球システムガバナンス。2013年度から、環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクトS-11（持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究プロジェクト）プロジェクトリーダーを3年間努めた。</p>
<p>佐藤 真久（さとう まさひさ） 東京都市大学大学院環境情報学研究科教授/国連大学サステナビリティ高等研究所客員教授</p> <p>東京都市大学大学院環境情報学研究科教授、国連大学サステナビリティ高等研究所客員教授。地球環境戦略研究機関（IGES）研究員、ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）のシニア・プログラムスペシャリストを経て現職。現在、ESD円卓会議委員、環境省協働取組加速化事業委員、UNEP10年枠組（持続可能な生産と消費、ライフスタイルと教育）ワーキング委員などを務める。協働ガバナンス、社会的学習、中間支援機能などの地域マネジメント、組織論、学習・教育論の連関に関する研究を進めている。</p>
<p>阿部 治（あべ おさむ） 環境パートナーシップオフィス等運営委員長/立教大学社会学部教授</p> <p>専門は環境教育・ESD（持続可能な開発のための教育）。現在、立教大学社会学部教授、同ESD研究所長、ESD活動支援センター長、青森大学客員教授、NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議代表理事、公益社団法人日本環境教育フォーラム専務理事、日本環境会議理事、国際自然保護連合CEC委員、EPO等運営委員長。日本環境教育学会長などを歴任。日中韓環境協力賞（2015）を受賞。</p>
<p>今田 克司（いまた かつじ） 一般財団法人CSOネットワーク代表理事/特定非営利活動法人日本NPOセンター常務理事</p> <p>1990年代、米国でNPO活動を始め、2000年に帰国。NGOや市民社会の役割に関する調査・研究、情報発信をすすめるCSOネットワークの共同事業責任者。2011年より一般財団法人CSOネットワーク代表理事。2008年より、市民社会の強化を推進するCSOのグローバルな連合体であるCIVICUS: World Alliance for Citizen Participation（南アフリカ）にて事務局次長。2013年帰国。2014年より日本NPOセンター常務理事、ならびに日本の国際協力NGOのアドボカシー・ネットワークである動く→動かす代表。</p>
<p>長澤 恵美子（ながさわ えみこ） 1%クラブ・コーディネーター/経団連事業サービス研修グループ長</p> <p>1983年、日本経済団体連合会事務局入局。96年から企業の社会貢献活動の推進を担当。03年からは企業の社会的責任（CSR）の推進も担当し、ISOにおける社会的責任の規格づくりに参加する経済界代表をサポート。09年研修や出版などの事業を行う経団連事業サービスに出向。2011年3月から1年間、経団連の東日本大震災対策本部を兼務。現在も1%クラブ・コーディネーターとして被災地支援などを継続。</p>
<p>永井 三岐子（ながい みきこ） 国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニット事務局長</p> <p>国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット事務局長。JICAモンゴル事務所、国連大学グローバル環境情報センター、JICA-JST水分野の気候変動適応策立案・実施支援システム構築プロジェクトなど、一貫して環境分野での国際協力業務に従事。2014年より国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニットにて研究と政策の統合を軸に事務局長として全体のマネジメントに携わる。</p>